

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

中岳第一火口では、10月8日01時46分に爆発的噴火が発生しました。

この噴火により中岳第1火口から1kmを超える広い範囲に噴石が飛散した可能性があります。

今後も同程度の噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から1kmを超えて飛散する可能性があるためと判断し、01時55分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）からレベル3（入山規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾及び火砕流に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石¹⁾が2kmを超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石及び火山ガスにも注意してください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1）

中岳第一火口では、本日（8日）01時46分に爆発的噴火が発生しました。爆発的噴火²⁾の発生は1980年1月26日以来です。爆発地震の振幅と空振の大きさから噴石は、1kmを超える広い範囲に飛散した可能性があります。

遠望観測では、天候不良のため噴煙は確認できませんでしたが、中岳第一火口の北東側8kmの阿蘇市一の宮町で降灰が確認されました。

・地震、微動の発生状況（図2、図3）

01時46分に発生した爆発地震の最大振幅（中岳西山腹観測点）は1,865 μ m/sで、火口から西側1.2kmの古坊中観測点で189Paの空振を観測しました。

火山性微動は、7日10時頃から大きな状態で経過していましたが、01時30分頃から急速に小さくなり、01時46分に爆発的噴火が発生しました。

・地殻変動の状況（図4）

古坊中観測点の傾斜計では、23時50分頃から火口方向の隆起が認められました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 阿蘇山では、火道内の爆発による地震を伴い、火口周辺の観測点で一定基準以上の空気の振動を観測した場合に爆発的噴火としています。

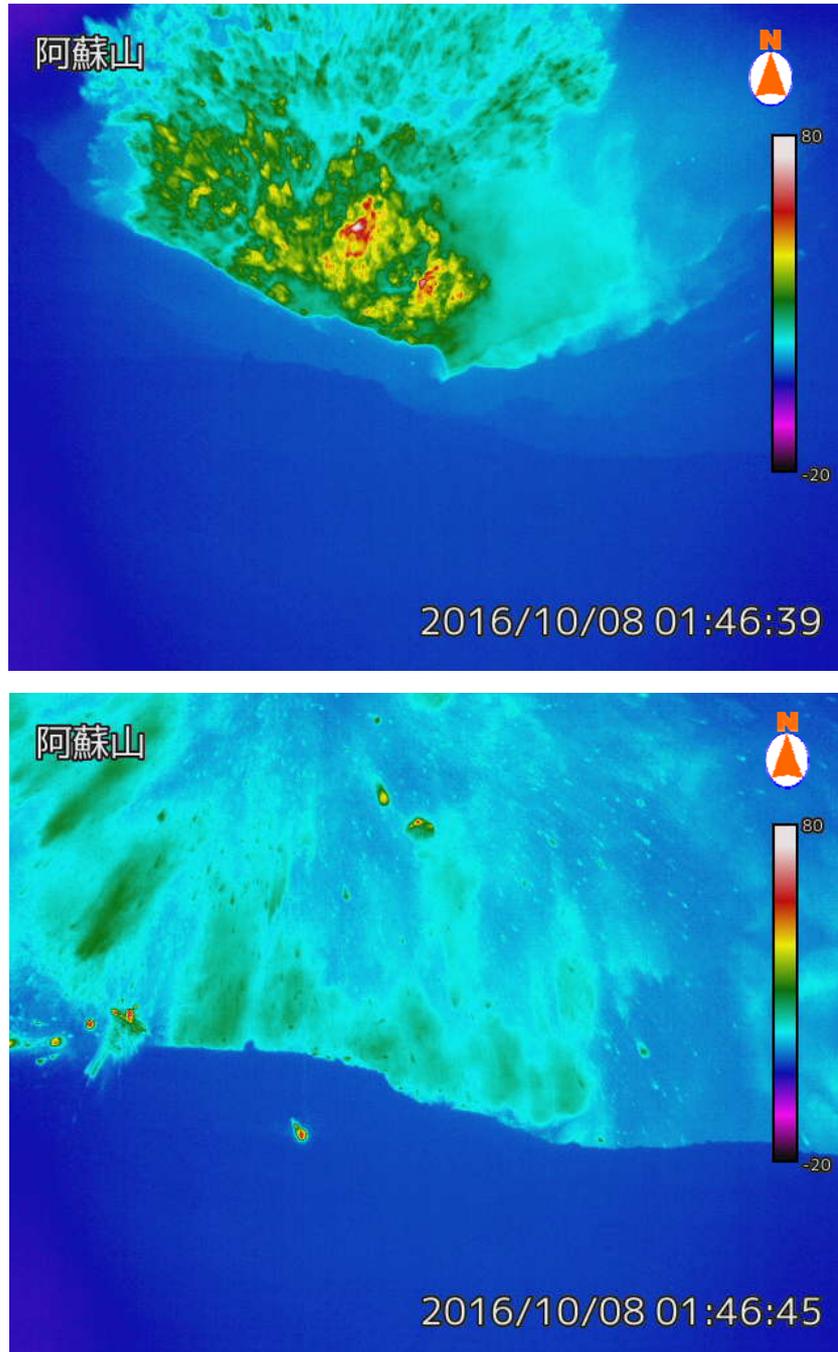


図1 阿蘇山 爆発的噴火の時の火口熱カメラの映像（第一火口南側）
中岳第一火口では、本日（8日）01時46分に爆発的噴火が発生しました。

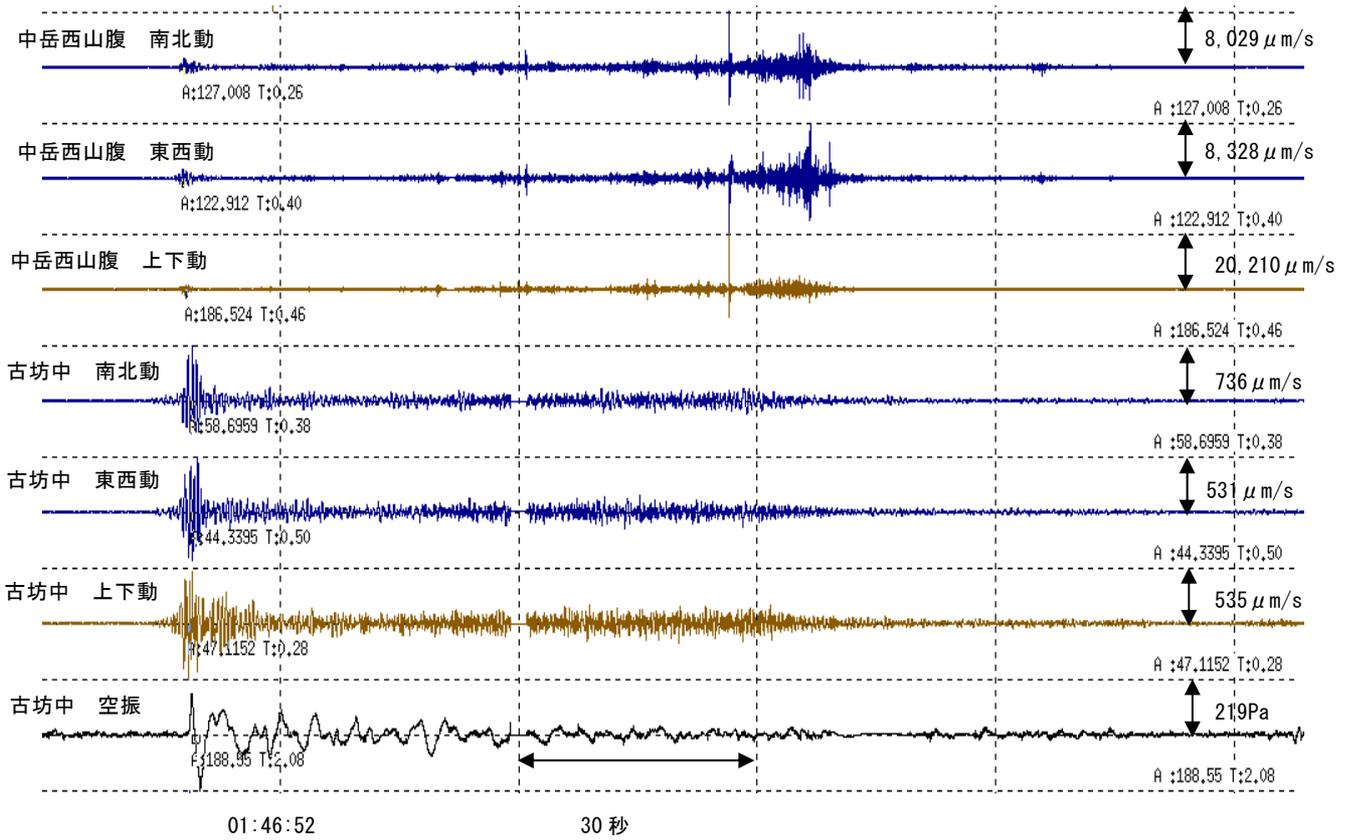


図 2 阿蘇山 01時46分の爆発地震

01時46分に発生した爆発地震の最大振幅（中岳西山腹観測点）は1,865 $\mu\text{m/s}$ で、火口から西側1.2kmの古坊中観測点で189Paの空振を観測しました。

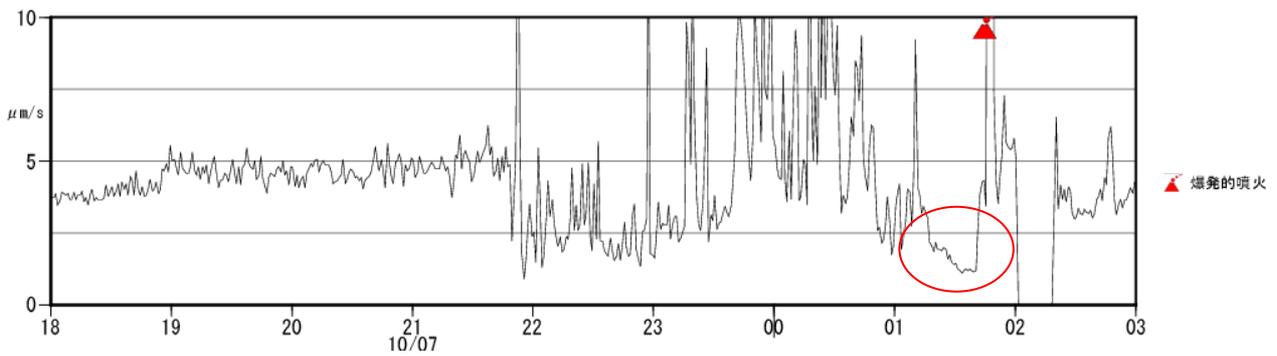


図 3 阿蘇山 中岳西山腹南北動の1分間平均振幅

火山性微動は、7日10時頃から大きな状態で経過していましたが、01時30分頃から急速に小さくなり、01時46分に爆発的噴火が発生しました（赤丸）。

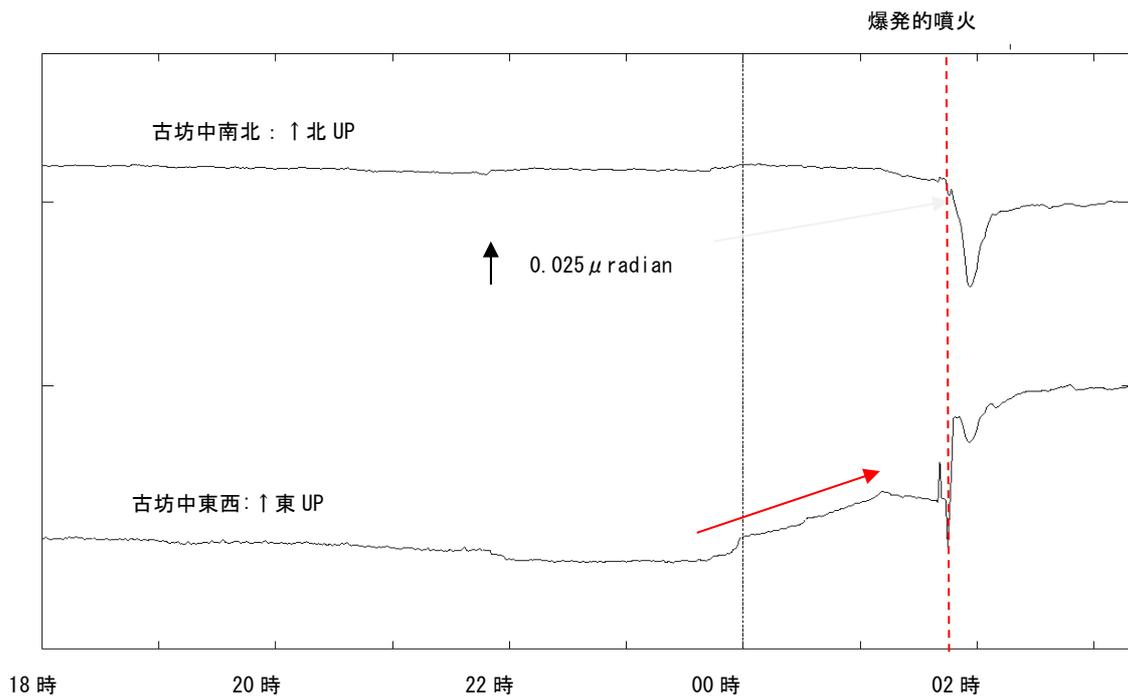


図4 阿蘇山 古坊中の傾斜変動

古坊中観測点の傾斜計では、23時50分頃から火口方向の隆起が認められました。

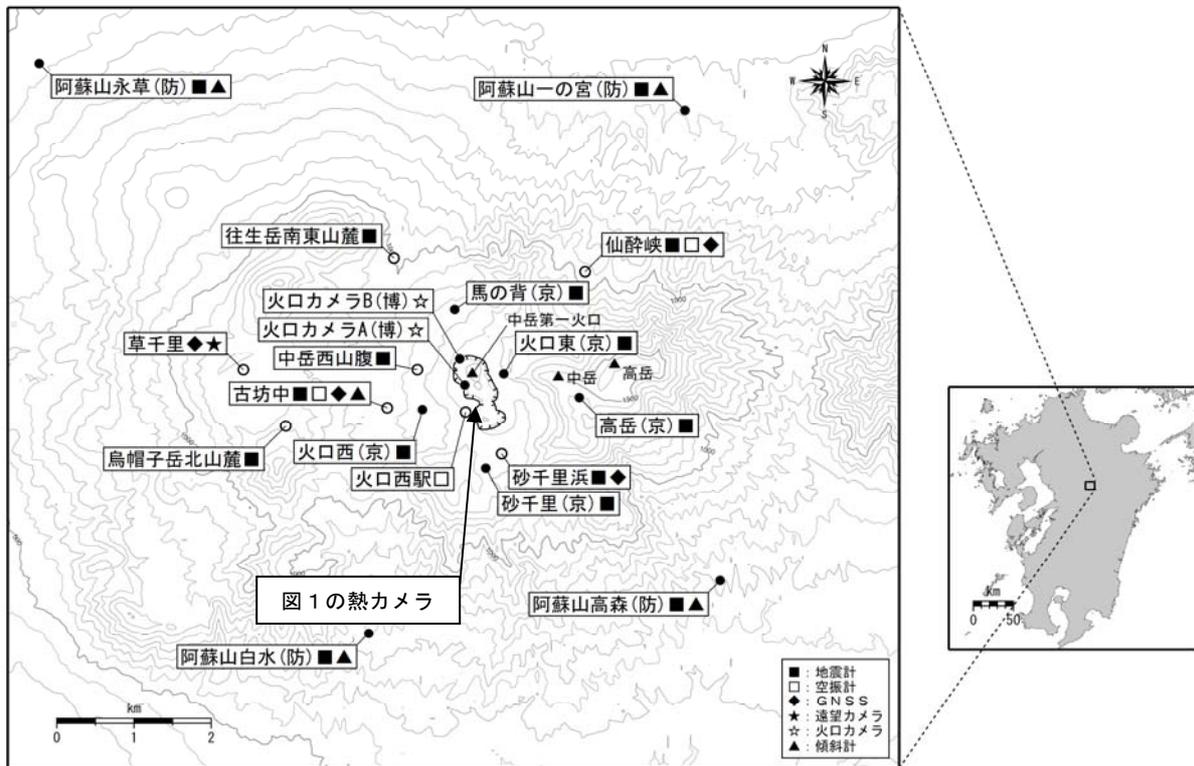


図 5 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(京) : 京都大学、(防) : 防災科学技術研究所、(博) : 阿蘇火山博物館